エプロンとかばん展

atelier une place ｜ 岡林尚子 ｜ 山下カオリ ｜ momogusa

2020/3/7 土曜日 — 3/22 日曜日
11:00 — 18:00 会期中無休

atelier une place
岡林尚子
山下カオリ
} 3/7 在廊

momogusa

ももぐさカフェ

11:00-18:00（17:30オーダーストップ）

会期中は季節のスープとルヴァンのパンのセットをご用意いたします。
今回出品作家のご当地食材を用いてのランチメニューをお楽しみに。
＊メニュー、お席のご予約は承っておりません。ご了承くださいませ。

鈴木麻美 1970年生まれ
1985 高校に入学して間もなく絵画教室に通い始める
1986 高校2年の4月から被服専門学校の洋裁教室に通い始める
1988 高校卒業後　被服専門学校に正式入学する
1990 専門学校卒業後　高級注文服縫製見習いを経て、
既製服会社のデザインなど既製服に関わる仕事に従事
その間は既製服に関わる講義を受けたり、
卒業した洋裁学校、美術、デッサンの教室に通う
1996 ユヌプラスという店名にて小さなセレクトショップを始める
2001 結婚を機にセレクトショップを閉め、改めて一から形にしていく
2007 このころより夫に少しずつ手伝ってもらい現在の形になる
全ての製品を2人で製作
鈴木丈志　ミシンワーク全般・タオル、ハンカチ製作など
鈴木麻美　ハンドワーク全般・企画・デザイン
　　パターン・衣服裁断・洗い・仕上げなど

＊どうぞよろしくお願いいたします。

atelier une place

1969年 高知県生まれ
20代半ばより、イギリスの田舎を旅したり暮らしたりする。
高知のフランスの古道具を扱う boncoinで働き始めたのが、30代。
店主 松村ひろ子さんとの2人展が、初めての企画展。
空気を含んだような仕上がりが好きで手縫いで縫うようになる。
現在は、フリーで布のものを製作。

＊エプロンとかばん展によせて

古い布のものを沢山見る機会をもらいました。

使う人によって
破れる場所が違う
身につけるもの。
繕いも色々。
楽しくなります。

そんなものを、すぐに作ることはできんので、
いつか、どこかの誰かのエプロンやカバンが
そうなるといいなと思いながらつくりました。

岡林尚子

山下カオリ

1972年福岡に生まれる。3人兄妹の末っ子。一人娘だったからか、子供のころ父から買ってもらった洋服は、デパートで高価なものを購入してくれて（貧しかったけど）着せてもらっていた記憶。生地を好きになったのは、父のおかげかも。
中学生の進路で、美術と家の間取りを見るのがすごく好きでデザイン科の高校を目指して、デッサンがんばったけど落ちて（頭も悪かった）、地元の普通科へ。高校の頃の思い出はほとんどないけど、体育祭の時、組別で大きなパネルに絵を描くのに参加したのは覚えている。やっぱり絵が好きだったのか。
高校卒業後、九州デザイナー学院のインテリア科へ。土器典美さんの家と暮らしに憧れていた。その頃から、雑貨やアンティークなどに興味が湧いてきたように思う。
卒業後、車の免許を取って色々お店巡りをしていたところ、イギリスのアンティークショップでバイトに誘われる。販売と修理もやらせてもらっていた。だからか、家具職人になりたくなって、長野の職業訓練校に行こうと思っていたが、家の事情で断念。
その頃、未だ親友のＩさんに、可愛いセルロイドのカップをプレゼントしてもらい、買ったお店を聞いたらUNTIDY（アンタイディ）というお店で、衝撃だった。店主の柏原さんが、仕入れから戻って来られると、すぐ来店しては、いつも舞い上がっていた。今でも大好きなお店。
その頃、私の集めた古道具もたまってきたので、UNTIDYさんの近くの当時好きだった洋服屋さんの横でスワップミートに参加。そして、洋服屋さんにリメイクのバイトに誘われる。（ミシンは中学生以来未経験だったのだけど…）それから、デザインや生産などを任され4年後に退社。せっかくミシン覚えたしと思い、中古のミシンを購入。骨董市にも出店するようになり、その時に、手作りのバックなども出すようになる。そこで、UNTIDYさんのお客様が柏原さんに、「山下さんがこんなの作ってるよー」と紹介してくださって、UNTIDYさんでバイトしながらバック作りが始まった。
しかし、まだ漠然と作っていたので、バック作りの基本もないし、どうしようかと考えた時にフランスの蚤の市で買ったかばんとポシェットをお手本にしながら見様見真似で作っていた。その頃は、古い布ばかりで作っていた。
福岡では、UNTIDYさんはじめマルチェロさんや村上レシピさんで、展覧会をさせていただく。そう、吉井町に行きはじめたのもUNTIDYさんに出会ってぐらいからか。古道具を扱われていた四月の魚さんが好きで、そのためだけに吉井に行っていた。自然もよかった。
四月の魚さんにも度々通っていたら、吉井町のとある場所でカフェをするからと、作業場も貸してくれるという条件で、カフェを手伝うようになる。福岡と吉井の半分半分の仕事の始まり。
それから2年半ぐらいが経って、今のアパートを見つける。自然とお店をする流れになり、4ヶ月かけて手伝ってもらいながら改装して、2007年に山下カバンをオープン。
高知のboncoinさん、東京のmon Sakataさん、金沢のfactory zoomerさん、香川の空とたねさん、京都の村上椅子さん、大阪のSajiさん、吉井町の四月の魚さんで、展覧会をさせていただく。
山下カバンは、古道具とかばんのお店だけど、大好きな方々の素敵な作品も置かせていただけるようになり、本当に出会いに感謝です。

＊自分も日頃から、普段着のようにエプロンを身につけていたのですが、このような企画にお誘いいただき、嬉しかったです。前々から作ってみたいと思っていたエプロンを作る機会になり、楽しいです！他の皆さまの作品も、すごく楽しみで、どのような展示になるのか！？ワクワクしております。そして、明子さんが自分のバックやエプロンを実際使っていただき、気にかけていただいた事、本当に感謝です。ありがとうございます。今、自分が作りたいもの、作ってみたいものにチャレンジしたいと思います…！よろしくお願い致します。

「エプロンとかばん」

おそらく毎日身に着け、手にするであろうエプロンとかばん。
どちらにも共通するのは、機能と使用目的（役割）があり、楽しみもあり、ある種の依存性もあること。と同時に、女子の大好きなアイテムである。

エプロンは衣服を汚さないという役割があるが、衣服の上に重ねたままのスタイルで散歩やお買い物にも行ける「サブ服」でもあり、女子中高生が着けるマスクのように身に着けていると安心する。
実際、体型が晒されず安心するのは私のような年齢の女子だけでなく、プライベートと公の線引きとなり、違う意味で同様に安心であるが、乙女はその美しさを覆うことで更に可憐さを引き出し、気高い美しさが保たれるように思う。（映画「真珠の首飾りの少女」の頭巾がそのような役割を果たしていた）身に着けることでスイッチが入り、あるイメージが加わ（ったような気にさせてくれ）る装置、とも言えるかも知れない。年齢に関係なく可憐な少女になったり、イタリアの恰幅の良いおかみさんになったり、腕の鳴る料理人になったり、修道女になったり…。また、エプロンやタブリエ、前掛けを、ワンピースに重ね着、ジャンパースカート、（オーバー）スカート、衣服としてのタブリエ、とお洒落の小道具や主役に格上げすることも自由、また最初からそのようなコンセプトで作られたものなど、見立てや解釈の楽しみは無限に拡がる。

コーディネートの一部、また衣服の一部であり、身体の一部でもあるかばん（布袋）。ものを入れて携帯するポシェット的なものから、重い荷物を持ち運ぶかばんまで。かばんの中のものを整理するために入れる、ものを大切に持ち運んだり、カバーするための布袋、巾着袋など多岐に亘り、やはり女子は大好きだ。

今回は、大好きなの三人の作り手たちの布選びやかたち、縫製のディテイル、工夫により作られた「エプロンとかばん」が並ぶことを唯々夢見ての企画です。
ストイックでここまで頑固に徹底した丁寧な手仕事は見たことがないatelier Une place。衣服や晴れ着としてそのまま着られるエプロンドレス等はもちろん頑強な使用にも耐えます。原点の巾着や、スマホやハンカチを携帯できるサコッシュ。
岡林尚子さんの、何とも味わい深い、指に穴が開くのではないかと思うほどの強固な古布にも手縫いで針を刺し仕上げるかばん。愛溢れる布への繕い、独特のタブリエ・エプロンのかたちにキュンキュンします。使い続けているかばんは何度も修理して頂いています。
やはり古道具が身近に在る山下カオリさんの仕事の楽しみは、懐かしい褪せたポップな色の布たち。かたち、手の施し方やパーツも独特です。制作後に藍染めしたエプロンも。一点一点のストーリーに思いを馳せながら使うのが楽しみです。
momogusa（アトリエ）も、うれしいことに同じ布や糸を用いて作る仲間としてご一緒させて頂きます。田所真理子さん画の「折り返し前掛け」やサロンの残布から出来たエプロンやカバンたち。衣服にもなるタブリエ/サロン/スカート、かばん。

愛おしい仕事が集まり見渡してみると、みなさん相当な頑固な偏愛メンバーでした。人にも作品にも惹かれたわけです！
「エプロンとかばん」好き女子（男子もOK）の皆さんとの出会いをとても楽しみにしております。

（百草/momogusa 安藤明子）

3/23（月）–3/25（水）　展示替えの為休廊
3/26（木）、3/27（金）　常設展示
3/28（土）–4/12（日）　one room exhibition　yacmiiの刺繍 on 百草サロン 火水休廊
4/13（木）–4/21（火）　常設展示 火水休廊（4/21火曜日は営業）
4/22（水）–4/24（金）　展示替えの為休廊
4/25（土）–5/10（日）　Kitta展 会期中無休

*one room exhibition
「yacmiiの刺繍 ・・・on 百草サロン」

3/28（土）-4/12（日）　（火水休廊）
刺繍作家 yacmiiのブローチ作品、アートワーク、
新しい試みの百草サロンとのコラボレーションをお楽しみに

ギャルリもも ぐさ
〒507-0013 岐阜県多治見市東栄町2-8-16
tel. & fax. 0572-21-3368
https://www.momogusa.jp
多治見ICより車で10分
JR多治見駅北口よりタクシー 12分
（JR多治見駅より東鉄バス13分「高田口」下車1km）